

「人権尊重社会を

めざす県民運動」事業

# 第12回

# 秩父郡市

# 人権フェスティバル

期日 10月25日(火)  
場所 横瀬町町民会館

横瀬町大字横瀬2000番地

☎22-22267

主催 秩父郡市人権教育・啓発推進連絡会議

入場料 無料

問合せ 総務課行政担当 ☎62-11231

## ステージプログラム

- 12:00 開場
- 13:00 開演  
オープニングイベント  
秩父屋台囃子・秩父音頭  
(社会福祉法人清心会さやかの皆さん)
- 13:45 人権作文優秀作品発表
- 14:20 講演「東日本大震災と社会的弱者」  
NPO人権センターHORIZON  
事務局長 片岡 遼平氏  
(岩手県・宮城県の被災地を中心に、  
被災地支援とボランティア活動に  
携わる。)
- 16:00 閉会

## ホワイエ

- ・東日本大震災復興支援コーナー
- ・知的障がい者施設等による物品販売
- ・人権啓発物品の配布

## 人権作文

### 「平和」をこの手に

皆野中学校3年

横田 結さん

「平和」とはなんだろう。辞書には「心配やもめごとがなく、なごやかな状態。」と書かれています。果たしてこの世界に「平和」は守られているのでしょうか。

私は中二の冬に、学年劇の脚本を書きました。そこでテーマにしたのは、太平洋戦争末期に勃発した「沖縄戦」のことでした。脚本を書くための知識を得るために、本などの資料を見たり、祖父や祖母、近所のお年寄りに聞き取り調査をしたりしました。

私の知った事実はとても残酷的なことでした。私と同じくらいの少年が兵隊としてお国のためにと戦い、少女は戦線に向き、負傷兵の看護をするのです。多くの子供がお腹がすいたのを我慢するので、皆さんの人々が夢を叶えることを諦めるのです。た

くさんの人々が愛する人と別れなければいけなかったのです。そして本土決戦の捨て石となった沖縄では、たくさんの命が碧き海に散っていったのです。

戦争は命も夢も自由も、そして愛も一瞬にして全てうばっていきます。それは恐ろしいほどに「平和」とかけはなれていました。果たしてそれは人間の行動として正当であったのかという疑問さえも浮かんできました。しかし、これは六十数年前に実際にあった日本のできごとなのです。

領土や権力がためにやったのでしょうか。例えば領土や権力があつたとしても幸せに暮らす人がいなくては、私はその戦争を意味もなくやっていることと思えるのです。

私たちは学年劇の脚本の題名を『碧き海に散った命と太平洋戦争沖縄戦の悲劇』と名付けました。劇の最後には、沖縄本土復帰三十周年イメーτζソングとしてつくられた「島人ぬ宝」という歌を合唱しました。それは沖縄の大切に愛を歌ったものでした。

私は数年前に沖縄に旅行に行きました。沖縄の人たちは

人柄がとてもよく、とても癒される場所でした。ここが三十数年前は日本の領土でなかったと思うと不思議でなりません。長い間犠牲になっていた沖縄の人たちがいるからこそ日本の今があるということを考えると、沖縄の人たちに対して感謝の気持ちでいっぱいになります。しかし、今でも沖縄には米軍基地が残り戦争の爪痕が残されているということを忘れてはいけません。

今もまだ戦争をしている国があります。それは「平和」が守られていないということです。それは人としての権利を無視していることと同じになります。一権力者の支持で何人も命が奪われます。今こそ世界中で手をとりあい共生していくことが大切なのではないでしょうか。一人一人を尊重していくことも大切なのではないでしょうか。世界中の人々が笑顔で暮らすことができる世界になったらいいと思います。そして胸を張って「平和」といえるような世界を築いていきたいです。